

『京都SFアンソロジー（仮）』のコンセプト

● 対象となる作品

以下のコンセプトに則った京都を舞台にしたSF短編小説

※ウェブ上や非商業同人誌など、いかなる媒体でも既に発表した作品は応募不可とします

● 『京都SFアンソロジー（仮）』のコンセプト

テーマ：「観光地の向こう側」

SF小説を面白くする要素の一つに、「想像力を上手に飛ばす」という方法があると思います。規模を大きくしたり、加速させたり、要素を誇張したり……。『京都』という土地には、SF的想像力を働かせたら楽しくなりそうな要素がたくさんあります。都、祇園、寺、嫌味な京都人、たくさんの祭り、変な大学生、鴨川、はんなり……。度々エンタメの舞台にもなっており、SNSでバズりそうな土地柄のエピソードトークにもことかきません。私自身、一步京都を離れると「京都」のイメージをなぞるようなエピソードを展開することもあります。観光地であり、旅行等で訪れたことがある人が多いことも相まって、キャッチーなコンテンツとして愛され、消費されている場所だと思います。

でもその方向で「京都」なるものが消費されることには違和感もあります。暮らしているものにとっては京都は当然生活の場です。なんで私は自分の生活の場である「京都」をこんなふうパッケージして切り売りしているんだろう？

当然ですが、上述のような京都らしさは「嘘」というわけではありません。でも同時に、そうやって消費されているものの背景には、それらを作ってきた歴史的文化的な背景や、物理的な基盤や、人々の行動があるはず。『京都らしさ』としてパッケージにしてしまうと取りこぼしてしまうもの、『京都らしさ』を生み出してきた生々しい人々の生活や歴史、『京都らしさ』とは離れたところでひっそりと息づいているものたちに目を向けながら、アンソロジーを編みたいと思います。京都への愛も違和感も（場合によっては憎しみも？）ないまぜの書籍にできたらいいなと思っています。

あなた自身から見えている京都の物語をお待ちしております。

● 避けていただきたい内容

以下の要素を含む原稿の収録がすでに決定しているため、メインの要素として登場させるのは避けていただけると嬉しいです。

- ・ 京都大学
- ・ 京都での祭りやイベント

また、京都市外が舞台の作品を優先して採用させていただきます。